

校長室の窓から

～夢の扉 第30号～岐阜編

R 2 . 1 1 . 9 (月)

新型コロナ感染拡大第3波に警戒を。

文責 学校長



～英検実施にご協力（荷物の持ち帰り）有難うございました～

1 総文祭各部門(演劇・吹奏楽・放送)でコンテスト・コンクールが開催されました。

11月7日(土)・8日(日)に県総文祭の演劇コンクール、音楽・吹奏楽部門の連合音楽会、放送専門部の放送コンテスト(非公開)がそれぞれ開催されました。演劇コンクールでは本校演劇部が出演3名、照明1名、音響1名の5名のメンバーで、独特の世界観広がるオリジナル劇に挑戦しました。落語「時そば」や「まんじゅうこわい」のパロディを盛り込んだユニークな舞台でした。吹奏楽部はアンサンブル部門のクラリネット五重奏で「スカボロー・フェア」を、サクソフォーン三重奏で「アムズメント・パーク組曲」を、吹奏楽部門で「斐伊川に流るクシナダ姫の涙」「ディスコ・キッド」を演奏しました。各イベントともに感染防止策を十分に講じての開催でした。



2 『環境芸術の森』(巖木町)が今週末紅葉の見頃を迎えます。

巖木町の平之地区にある『環境芸術の森』の紅葉が見頃を迎えています。数年前までは県内でも知られていませんでしたが、今や旅行会社の紅葉巡りツアーにも組み込まれる名所となりました。HPの画像だけでも十分楽しめますが、是非訪れて紅葉の森をたっぷりお楽しみください。佐礼山の中腹にあり、**険しい坂もありますので歩きやすい服装をお勧めします。**



3 今週の話事成語・・・「背水の陣」【問題】「背水の陣」を英語で表現すると。

決死の覚悟で敵に立ち向かうこと。全力をつくして、仕事などにあたること。(出典：『史記・淮陰侯列伝』より)

【由来】「背水の陣」とは、川や沼などを背にして陣をつくること。こうすることによって、後ろが川であるため、敵を前にしても逃げ場がないため、兵士が必死になって戦うようにし向けること。漢の国の王の劉邦のもとに名將として名高い韓信という武將がいた。この韓信が趙の国と戦ったときにこの方法を利用して、見事に勝利を収めたということから、この語ができた。戦いが勝利に終わった後、將兵たちが韓信に「兵法では山を背にし、川に顔を向けて陣を組むべしと書かれているのに、今回はその逆、川を背にしたのになんと勝ってしまいました。これはいったいどう解釈したらいいのでしょうか」と聞くと、韓信は「兵法に『これを死地に陥れて後に生き、これを亡地に置いて後に存す』とあるではないか。お前たちはここに気づいていなかっただけである。わたしはまだ將兵の心を掌握していない。まるで市場の群衆を戦わせているようなものだ。これを死地に置き必死で戦ってもらわない限りみな逃げってしまうだろう。そこであの陣にしたのだ」と言いました。諸將はこれを聞いて「なるほど、おみごと。それは我々の考えの及びもしないことでした」とみな感服しきりだったということです。この韓信の戦いが後に話事成語「背水の陣」になりました。(参考：「故事ことわざ辞典」より)

【書き下し文】
諸將賀し因りて問ひて曰はく、
「兵法に『山陵を右にして倍(そむ)き、水沢を前にして左にす。』と。今水を背にして勝ちしは何ぞや。」と。信曰はく、「兵法に『之を死地に陥れて而る後に生き、之を亡地に置きて而る後に存す。』と曰はざらんや。」と。諸將皆服す。

4 今週の名言・・・高橋尚子(岐阜県出身)さんの言葉です。

○長い階段を一気に上がろうとすると、途中でへばってしまふ。でも一段ずつ確実に上がっていけば、時間はかかっても頂上まで上がることができる。
○夢を持ち続けて頑張れば、暗闇の道にも光が差してくる。

【解説】女子マラソンと言えば、高橋尚子。彼女ほどの選手は後にも先にも出ないでしょう。マラソンという過酷な競技にも関わらず、レース後のさわやかな印象は多くのファンを引き付けました。オリンピック金メダリストとしての彼女のこの言葉は人生にも通じる名言です。

【高橋尚子について】1972年生まれ。日本の元陸上競技選手(女子マラソン)。岐阜県岐阜市出身。シドニーオリンピック金メダリスト。女子マラソンの元世界記録保持者。女子スポーツ界で初の国民栄誉賞を受賞。愛称は「Qちゃん」。現在はスポーツキャスターなどで活躍中。増田明美さんとのコンビの解説は裏情報盛りだくさんで面白い。

5 入試によく出る漢字・・・『訓読語ベスト200』から・その6 いくつか書けますか？

- | | | |
|--------------------|---------------|-----------------|
| ①易しい問題をアナドってはいけない。 | ②進歩の跡がイチジルしい。 | ③参考書はウスい方がいい。 |
| ④自分の弱点をオギナおう。 | ⑤海岸でカイガラを拾う。 | ⑥若いうちにキタえよう。 |
| ⑦クワしい説明を聞く。 | ⑧鉛筆をケズる。 | ⑨コいお茶を飲んで目を覚ます。 |
| ⑩今日は頭がサえている。 | ⑪先生にシカられた。 | ⑫空気がスんでいる。 |
| ⑬顔を洗って髭をソる。 | ⑭苦しさにタえて頑張ろう。 | ⑮必ず合格するとチカう。 |
| ⑯労力をツイやす。 | ⑰準備をトトノえる。 | ⑱景色をナガめる。 |
| ⑲水がニゴる。 | ⑳着物をヌう。 | |

6 今週の一冊・・・馳星周氏の『少年と犬』（新潮社）です。

2011年秋、仙台。震災で職を失った和正は、認知症の母とその母を介護する姉の生活を支えようと、犯罪まがいの仕事をしていた。ある日和正は、コンビニで、ガリガリに痩せた野良犬を拾う。多聞という名らしいその犬は賢く、和正はすぐに魅了された。その直後、和正はさらにギャラのいい窃盗団の運転手役の仕事を依頼され、金のために引き受けることに。そして多聞を同行させると仕事はうまくいき、多聞は和正の「守り神」になった。だが、多聞はいつもなぜか南の方角に顔を向けていた。多聞は何を求め、どこに行こうとしているのか……。犬を愛するすべての人に捧げる感涙作！

(参考：本書裏表紙説明より)

【解説】馳星周（はせ・せいしゅう）氏と言えば、デビュー作「不夜城」に代表されるようにハードボイルド作家のイメージが強い。本書もその一面も少なからず見え隠れする作品ですが、読み終わると心が癒される作品で、「直木賞」にふさわしい作品に仕上がっています。第一話「男と犬」に始まり、第二話「泥棒と犬」、第三話「夫婦と犬」、第四話「娼婦と犬」、第五話「老人と犬」へと読み進めていくと、一匹の犬・多門がその呼び名をクリント・トンバ・レオ・ノリツネと変えられながら、次々と出会う新しい飼い主との出会いと別れが、読む人を切なくさせながらも引き込んでいき、本のタイトルともなっている最終話・第六話「少年と犬」の運命のクライマックスへと終着していく見事なストーリーとなっています。映画化・アニメ化も期待される人情味溢れる一冊です。本校図書館にもあります。

【作者・馳星周について】1965 年北海道生まれ。横浜市立大学卒業。出版社勤務を経てフリーライターになる。96 年『不夜城』で小説家としてデビュー。翌年に同作品で第 18 回吉川英治文学新人賞、98 年に『鎮魂歌(レクイエム)不夜城2』で第 51 回日本推理作家協会賞、99 年に『漂流街』で第 1 回大藪春彦賞を受賞。著者多数。近著に『アンタツチャブル』『比ぶ者なき』がある。2020 年『少年と犬』で第 163 回直木賞に輝いた。(参考：本書表紙裏の著者紹介文より)

7 日本全県の名所とスイーツめぐり…第30回は岐阜県です。

○名所 (参考：「ぐる旅」その他より)

◆白川郷合掌造り集落・・・合掌造りの建物が最も多く残る地域で、大小あわせて現在100棟余りです。合掌集落の規模としては全国で最大で、国の伝統的建造物群保存地区に選定されています。平成7年12月世界遺産に登録されました。今も実生活の場として使われているところに価値があり、それが他地域の合掌民家集落と違うところです。白山山麓の自然を背景とした集落の景観は、俗界と切り離された仙境のようです。

荻町城跡展望台から見下ろす白川郷合掌造り集落は、お薦めです。特に冬に訪れると、雪を被った逆三角形の可愛い合掌造りの建物が雪国の闇に浮かび上がる姿は絶景です。

◆飛騨高山・・・城下町の中心、商人の町として発達した上三之町を中心に、江戸末期から明治期に建てられた屋敷等が軒を連ねる古い町並み。景観を維持するために電線をすべて軒下配線にするなど、徹底した保護を続けています。また、通りには地酒や朴葉味噌など、飛騨高山ならではの名産品を扱う店がずらりと並んでいます。飛騨高山の歴史と文化の町並みを守り続けています。是非訪れたい名所の一つです。

○スイーツ・土産

【柿羊羹】まんが「美味しんぼ」の第26巻に日本のスイーツの原点として登場する「柿」。その柿の生産地としても有名な岐阜県ですが、「柿羊羹」は、契約農家で大切に育てられた干柿をジャム状にし、寒天と砂糖を煮詰めたものを混ぜ合わせて丹念に作られています。本物の竹を縦半分にした入れ物が珍しく、お土産にも喜ばれています。高級感溢れるお菓子なので手土産に持って行くにとっても喜ばれます。甘さがあるなかで、しっかりと柿の優しさも残っています。

【栗きんとん】栗を使った高級和菓子で、岐阜県東濃地方の代表的な銘菓です。栗を炊きあげてすり潰し、砂糖を加えて茶巾しぼりなどで栗の形にしぼったもので、ほくほくとした食感にほどよい甘みがあります。秋になると、全国から多くの和菓子ファンの方々が買い求めに訪れます。

8 保護者の皆様へ・・・朝晩寒くなってきました。コーヒ一杯の差し入れを。

1月16日・17日に実施予定の「大学入学共通テスト」まで残り68日となりました。3年生諸君は学校でも家庭でも寸暇を惜しんで学習に勤しんでいることと思います。毎晩のコーヒ一杯の差し入れをよろしくお願いします。

【表面の問いの答】to burn the boats—burn the bridge (背水の陣をしく)」「I will fight a last-ditch battle (背水の陣で闘う) 他に「fighting with one's back to the wall」も。

① 侮	② 著	③ 薄	④ 補	⑤ 貝殻	⑥ 鍛	⑦ 詳	⑧ 削	⑨ 濃	⑩ 汙
⑪ 叱	⑫ 澄	⑬ 剃	⑭ 耐	⑮ 誓	⑯ 費	⑰ 整	⑱ 眺	⑲ 濁	⑳ 縫